

瀬戸内に建つ、400年の歴史

寺とも かわら版



徳成寺

とく じょう じ

第229号 2026年1月 発行責任者／住職・大山健児 坊守・大山ひとみ

新年、明けましておめでとうございます。住職の大山です。今年も、皆さんお元気で徳成寺と寺ともかわら版にお付き合いの程、よろしくお願いします。

冒頭からで恐縮ですが、詩人・茨木のり子氏の詩に、「死こそ常態、生はいとしき蜃氣楼」という一節があります。

長年、葬儀に携わって参りますと、それもそうだなど、頷けるような気がします。蓮如上人は、私たちの身を「白骨となれる身なり」と仰っています。ただ、その身の事実を忘れて生きているだけなのでしょう。なぜなら白骨とならざる身を生きている方は、どこにもいらっしゃいません。

だからと言つて、自暴自棄になつたり、悲観したりしろと言つているではありません。むしろ持つていた時間や今持つてゐる時間に感謝しよう申し込み上げたいのです。茨木のり子流に言えど、いとおしむ、慈しむのです。

新年おめでとうございます、副住職です。

年末の特番ラッシュの中で一番樂しみにしているのはM-1グランプリです。その中でもドンデコルテの漫才が印象的でした。披露されたネタは渡辺さん(ボケ役)が身体に電飾を巻いて自転車で走るいわゆる名物おじさんになりたいと言つた。とは言えまだ私は光つて走るわが正気なのか深く考えさせられました。これは言えまだ私は光つて走るわけにはいきませんので、本年も変わらぬお付き合いを頂ければ幸甚に存じます。よろしくお願ひします。

大山超世の耳を澄ませば 「光つて走る」

喜怒哀樂と言つた感情は、現代人のかもしませんが、持つてゐる時誰しもが持つ感情ですが、いとおしんだり、慈しんだりと言つた感情は、ほぼ参りませんか。

抱くことがないのではないでしょ
か。それ程感情が乏しくなつてゐる

のかもしませんが、持つてゐる時
間をいとおしむ慈しむ一年にして
参りませんか。



ドンデコルテ
面白かったです